

令和7年度 事業報告

I 概要

公益社団法人として本会には、県民の適切な栄養・食生活の習得に向け、あらゆる機会を通じた積極的な活動が期待されています。令和7年度は、多様化する社会ニーズに対し、多職種連携のもとで管理栄養士・栄養士の専門性を遺憾なく発揮した年度となりました。特筆すべき点として、地域密着型の「まちの保健室」において、県内の他職能団体と緊密に連携し、国の掲げる「健康日本 21（第三次）」に基づいた予防的事業を展開いたしました。これは今後の地域保健における先駆的なモデルケースとなるものです。令和7年度重点項目に関する事業報告は以下の通りです。詳細は、次項以降の附属明細書をご参照ください。

重点項目1 災害支援のための体制整備

将来発生が危惧される南海トラフ地震等の大規模災害に備え、会員の危機管理意識の向上と実務能力の習得を目的とした「災害支援スタッフ養成講座」を実施いたしました。日本栄養士会主催の全国合同災害訓練へ参画し、広域連携スキルの向上と実働体制の確認を行いました。また、愛知県の担当と協議し、非常事態における本会の役割と円滑な連携フローを確認、実効性の高い支援体制の構築に向けた会議を行いました。

重点項目2 栄養ケア・ステーションの充実

令和7年度は、栄養ケア・ステーションへのニーズが大きく拡大した年となりました。特定保健指導や地域ケア会議への参画に加え、医療機関からの居宅療養管理指導、外来・訪問栄養指導の依頼が伸長しました。さらに、障害福祉サービス等報酬に関連する新規依頼も増加しています。多様なニーズに応えるべく、「リハビリテーション・口腔・栄養」の三位一体となった専門職合同研修会を拡充し、質の高い提供体制を整備いたしました。

重点項目3 会員の専門知識・技術の向上

専門職として最新の科学的知見および高度な技術を習得し、資質向上を図る機会を提供しました。1月に行った「愛知県栄養士会実践報告会 2025」では、多くの会員が日頃の業務成果を発表し、職種を超えた課題を共有することができました。このことは、会全体の学術的レベルの底上げになったと考えられます。

重点項目4 県民の健康にかかる事業の展開

2026年度開催のアジア競技大会を見据え、県民のスポーツおよび運動への関心が醸成される機を捉えた啓発活動を展開いたしました。愛知県歯科医師会との共催により「健康づくり提唱のつどい」を開催し普及啓発に努めました。立浪和義氏（前中日ドラゴンズ監督・愛知県歯科医師会 8020 県民健口大使）を招聘し、「わたしの勝負めし」をテーマとした講演を実施いたしました。200名を超える県民が参加し、食と口腔保健の重要性を広く発信する機会となりました。

重点項目5 社会貢献に貢献できる組織の強化

組織の持続可能性を高め、社会貢献を継続するための基盤整備に注力いたしました。公式ホームページやLINE等の情報伝達ツール、ハイブリッド形式やオンデマンド配信による研修の利便性を向上させ、会員の学習機会を担保することで継続会員の確保に努めました。さらに、養成校への直接訪問や若手会員の活躍を可視化する「フレッシュダイエティシャン」を展開し、新卒者の加入を促進するための本会の魅力発信と組織の活性化を図りました。